

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人千ヶ峰会
施設名	A B Cみかげ保育園
報告者（役職）	松原 倫栄（主任）
住所・連絡先	神戸市東灘区御影本町6丁目1番地15号
	☎ 078-856-5158
	E-mail abc-mikage@kisnet.ne.jp

○タイトル（保育計画）

みんなの遊びに夢中・創造・無限を求めて

○主な助成備品

ジャンボプラネット（総合遊具）

1. 保育計画策定の目的

本園は神戸市東灘区の御影に位置しています。保護者は落ち着いた住宅環境の中で生活し、教育熱心です。また、親子3世代の家庭も多く、安心して子育てのできる街です。5月にはだんじり祭りで街中がにぎわい文化の継承を大切にしている地域です。

近隣には小さな公園もありますが、既成の遊具や広場は不特定多数の住民の遊び場でもあり、心を落ち着け十分にごっこ遊びを展開することができにくい環境です。

そこでひとりの子供がごっこ遊びに打ちこみ、夢中になれる身近な環境づくりを工夫し人との関わりやコミュニケーションを図り、遊びの安定を目指すべく、保育園の環境を見直していくことからスタートいたしました。

また、乳児から幼児へと様々な子どもの発達する姿を豊かなものにする為、保育園の環境を見直し、子どもの発達に沿った遊具を設置し、多様な経験を深め心豊かな子どもの育ちを推進するようにと考えてきました。そこでジャンボプラネットを導入し、遊びを通して様々な身体の発達を支えながら、ごっこ遊びの発展に向けて歩みを深めてきました。

2. 具体的な実施内容

年齢別や異年齢との関わりなど子ども達がジャンボプラネットで遊ぶきっかけになる姿を見守り、その遊びが人や物を通して多様に変化し展開していく様子を受け止め、今回導入のジャンボプラネットを通して子ども1人1人の思いや願いがより豊かなものになっていくための保育について検証しました。

(0歳児) 「はいりたいな～！どうしようかな？」



トンネルの中が気に入り、出たり入ったり躊躇しています。「おいでー！」と優しい担任の声が聞こえると安心したのか、のぞき込み、ゆっくり赤いボックスまで進みます。先が見えない暗いトンネルでしたが、担任の「おいでー！」の声につられて、トンネルをくぐり、到着です。ボックスに響く先生の声と自分の声のかけ合いを楽しみ、やがて歌を歌い始めるなど、安心できる空間となっています。

(1歳児)



ボックス内にある小さなねじを踏み台にしてなんとか上がろうとしています。何度も滑りながら手に体重をかけることに気づき、左足を上げます。なかなか思い通りにはなりません。登りたいという思いが強く腕を伸ばすことでバランスをとることがわかり、やっと登りつめます。

トンネルの中に入ると、今度は身体をくねらせて狭い場所を前に進みます。途中で方向転換をして後ろを向こうとしますが、体の位置をどこに置けばいいのか迷い、足から下りることを学びました。

落ちないように慎重に・・・何度も挑戦です。足が届くまで床面を探るように動かし、ゆっくり確かめるように下りていきます。「楽しかった」の思いが届きます。

(2歳児)



「船に乗って出発！！」トンネルを大きな船に見立て、たくさんのお客さんをのせて夢の国へ出発です。

(3歳児) (4歳児) (5歳児)



子ども達は赤色が好きです。不思議と赤色のボックスに集まる子どもが多いのです。「赤色集まれ」「黄色集まれ」など色選びが始まります。すると、色によって形が違うことに気づき、三角四角丸など形と色の組み合わせの遊びが始まりました。



青色のボックスの中に、前日降った雨の水たまりがあり、落ち葉が浮いているのを見つけました。「なんだか天ぷらの油みたい」など、落ち葉を表や裏に向けて水に浮かべ、落ち葉の動きに興味を広がっていました。



くじら組のレストランがオープンします。コップとトレーで落ち葉を拾いあげ、「いらっしやいませ」とお客さんを呼び込んでいます。落ち葉に土をまぶしおいしい天ぷらを作っています。子ども達がお店の様子を見に集まってきました。手際よくお料理する子どもの姿を見てお客さんの行列ができました。ABCみかげ天ぷら屋さん開店です。



5歳児のレストランの楽しい様子に4歳児は天ぷら屋さんのお手伝いを始めました。「こちらどうぞ!」と案内係も登場し、大繁盛でした。3歳児は、嬉しそうに「おいしそう」とお店の様子に見入っていると4、5歳児の子どもがすかさず「おいしいですよ。」と優しく応答します。



ジャンボプラネットにも随分慣れ、子ども達の生活の一部となり、積極的な関わりが見られます。身のこなしも軽やかになってきました。

ある日、5歳児がこんな事できるよとプラネットの頂上に乗ってバランスを保ちながら体を左右に動かして楽しんでます。まわりの子ども達は「わあすごい!」「上手!!」拍手喝采です。それを見て4歳児は早速試してみようと思しますが、なかなか思うようにはできません。毎日、5歳児のお兄さんの勇姿をイメージしながら挑戦する子ども達が増えていきました。



「わあ、高速道路の車が見えるよ」「高いよ」「ヤッホー」ジャンプできるかな? 「わあ怖い」「できるかな?」と何度も自分の心に言い聞かせ、覚悟を決めて!!



勇気を振り絞り、思いきりジャンプ!!!
思わずその様子を見ていた4歳児は「すごい」「すごい」と歓声が上がっています。
勇気を出してジャンプ初挑戦の5歳児はみんなにほめてもらって大得意でした。

3. その成果と評価

ジャンボプラネットとの初めての出会いを通し、子ども達の心は大きく躍動していききました。

触ったり、のぞいたり年齢によって様々な受け止めが見られ、ジャンボプラネットへの興味や関心の違いに驚くことがたくさんありました。ジャンボプラネットへの愛着も増し、遊びの意欲に変化が見られ積極的に関わりを持つようになりました。空間の面白さや様々な形や色など子ども達にとって、魅力のある道具となり、遊びの世界が深まっていきました。

遊びに連続性も見られるようになりました。「朝の続きをしよう」と友だちを誘って保育室から園庭にとび出したり、室内での遊びが遊具へと広がったりなど、保育園全体が子ども達の楽しい遊び場づくりになっていきました。

子ども達はジャンボプラネットを通して、様々な人との関わりが広がり、日々遊びの発見が見られ、意欲的に活動する姿が見られるようになりました。また、体力もつき、けがをする子ども達も少なくなっています。

さらに友だちとの会話も増え、コミュニケーション能力も高まり、笑顔がたくさん見られます。1人1人が安定し、意欲的に遊びに取り組む姿を大切に今後も支援していきたいと考えています。

4. 今後の課題と展開

子どもの感性が豊かになる反面、遊びも活発になり、ジャンボプラネットへの関わりも大胆になっており、危険も伴います。そこで、遊びのルールや使用について子ども達と常に話し合いの場をもち、全職員には安全確認の周知徹底を図っていききたいと思えます。

さらに、保育の充実に向けて今後も研讃を深めていきたいと考えています。

以上